

しまね

いまいまねつと

2015
8 月号

(公財)ふるさと島根定住財団

(しまね県民活動支援センター)

<http://www.teiju.or.jp/>

募集期間 *当日消印有効
7/15(水)~9/15(火)

“農業、農村はカッコいい！”

和歌募集

和歌発祥の地 島根県が

“農業・農村はカッコいい！”を詠んだ和歌募集！

島根県雲南市にある須我神社で、スサノオノミコトが八股の大蛇を退治して、イナタ姫と新居を構えるに当たって詠んだ歌が、日本最初の和歌とされています。「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」また、万葉集には柿本人麻呂が石見で詠んだ歌が幾首もあります。「石見のや 高角山の木の 間より 我が振る袖を 妹見つらむか」など。これらにちなんで、“農業・農村はカッコいい！”と思う心境やライフスタイルを率直に詠んだ和歌と、その生活を綴ったアピール文を募集します。

詳細 ↓

「ふるさと島根定住財団」ホームページでご確認下さい！

<http://www.teiju.or.jp/>

■コンテスト対象：「和歌」及び「ライフスタイルをアピールする文」

(1) 現在の生活（ライフスタイル）を詠んだ和歌（短歌）

(2) ライフスタイルや自らの価値観などをアピールする文（概ね1,500字以内）

■応募条件：若者定住を促す企画として実施する趣旨から、概ね45歳以下とします

■入賞作品数及び賞金、賞品：最優秀賞1点（賞金10万円）、優秀賞2点（5万円）、秀作5点（賞金1万円）*入賞者全員にほか1万円相当の島根県特産品を贈呈します

■審査及び発表：一次審査により選定した優秀作品（8点）は島根県中山間地域研究センターで応募者が体験などを交えて発表。それを最終審査とし、最優秀賞、優秀賞などを決定！

最終審査は、島根県中山間地域研究センターにて10月24日(土)開催予定！

【応募・お問合せ先】(公財)ふるさと島根定住財団「和歌募集」係

島根県松江市朝日町478-18 松江テルサ3階

TEL: 0852-28-1008 / FAX: 0852-28-0692 E-mail: shimane@teiju.or.jp

主催・共催:

(公財)ふるさと島根定住財団
島根県

(島根県中山間地域研究センター)
地域活性化センター、JOIN
協賛: 宝島社 (田舎暮らしの本)

助成金情報

<p>(公財)公益推進協会 第8回夢屋基金 期 ~8/26(水)当日消印有効</p>	<p>子ども健全育成、環境保全、医療保健、国際交流・親善の分野を対象とした助成です。 対 法人格取得後1年以上の活動実績を有する団体が行う事業。他の助成金や補助金を得ていない事業。営利を目的としない事業。 金 1件あたり50万円上限 問 (公財)公益推進協会 夢屋基金事務担当：高野 Tel: 03-5425-4201 http://kosuikyo.com/</p>
<p>(公財)トヨタ財団 2015年度国内助成プログラム 期 9/1(火)~9/30(水)15時</p> <p>・基本情報、企画書を応募者専用ページから送信(アップロード) ・郵送、メール等による応募不可</p>	<p>地域の担い手となることを目指す若者が、地域住民とともに地域課題の解決につながる新たな仕事づくりに向けて実施するプロジェクトや、地域で活動するNPOなどの組織が、地域課題の解決につながる仕事の未来の担い手を育成するプロジェクト(なりわい塾・研修プログラム)を対象とした助成です。 対 本助成プログラムの趣旨に合致すること。プロジェクトチームによる2年間の事業であること。住民、NPO、行政、企業、教育機関など多セクターの参加があること。地域の多世代の参加があること(40代までの若者の参加は必須)、事業に対する他地域の人や組織による協力があること。 金 実施内容と申請額に基づき、選考委員会で決定された金額 問 (公財)トヨタ財団 国内助成プログラム 担当：喜田、加藤、大澤、石井 Tel: 03-3344-1701 http://www.toyotafound.or.jp/</p>

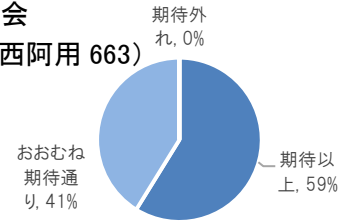
イベント情報

<p>竹取のかぐや 体験&学習会 竹チップ&パウダー農業活用術~ 竹チップでトマトが甘くなる 日 8/29(土)10時から</p>	<p>竹の活用を探る連続講座。今回は、竹堆肥の活用について邑南町のトマト農家さんの取り組みを教えてください。トマトを試食して竹堆肥の効果を体験!お昼ご飯は流しそうめんを楽しみましょう!現在・過去・未来の森林についての学習会も同時開催されます。 場 久喜林間学舎(邑智郡邑南町久喜660) 費 そうめん流し 大人200円、子ども無料 問 樹冠ネットワーク 担当：樋口 Tel: 090-4579-4634 E-mail: jukan5@yahoo.co.jp https://www.facebook.com/go2jukan</p>
<p>さくらおろち湖の里山ボランティア 山の仕事と自然体験 ~子どもたちの植えた苗木を守ろう! 日 8/8(土)10時~15時</p>	<p>森林インストラクターが小さな森をご案内し、森づくりのために植樹1年目の下刈りや親子で楽しめる森の学習体験を実施します。昼食は「みざわの館」で地元の手作り料理。おみやげに夏の涼を感じるかわいい苔玉もつくります。 場 無料送迎バスの集合場所 ① 島根県庁前(本庁舎殿町郵便局付近) 7:50 集合→8:00 出発 ② 穴道ふるさと森林公園(学習展示館前) 8:40 集合→8:50 出発 ③ 道の駅おろちの里(観光案内コーナー・お手洗い隣) 9:40 集合→9:50 出発 ※自家用車でお越しの方は③への集合が便利です。 ※送迎バスの帰路は、③15:20 出発→②16:00 出発→①16:30 到着予定。 費 大人2,000円、小学生以下1,000円 定 20名(申込み先着順) 問 NPO法人さくらおろち 担当：土山、<small>おもじろ</small>面代 Tel: 0854-48-0729 E-mail: sakura-o@bs.kkm.ne.jp</p>

地域づくり入門講座開催しました

参加者の声を紹介します

- 日時【全5回】6月3日(水)、10日(水)、17日(水)、24日(水)、7月1日(水)【全体の講座内容は？】
第1回[視察]10:00~16:00 それ以外 18:30~21:00 最終回:発表会
- 視察 * 県内実践者佐世だんだん倶楽部 代表 黒崎 寿夫さん(雲南市大東町西阿用 663)
- 講師 石原 達也さん(NPO 法人 みんなの集落研究所 代表執行役)
- 会場 視察以外 いきいきプラザ島根 4F 研修室
- 参加者 第1回 25名、第2回 24名、第3回 22名、第4回 17名、
第5回 22名 発表者 10名 修了証書授与者 19名



①現地視察、取り組みを整理、②地域の課題を整理し、対象を考え、③取り組み内容を決め、④目標を決め計画し、⑤企画を共有してブラッシュアップするという流れで連続講座を行いました。以下に、アンケートの声を紹介します。



- 第1回の佐世の視察で伺った話がとてもよかったです。実際に活動されていることを聞きながら自分の中に考えていることと重ねながら考えることができました。
- いろいろと事例を挙げて説明があり良く理解できた。
- 若い人の考え方が聞けて良かった。
- 皆さんのPassionを感じられて良かったです！

- 企画を立案するときの組み立て方がたいへん勉強になりました。大変勉強になるセミナーでした。ありがとうございました。
- 受け身の講義ではなく自分のプランを練るという事に焦点があるもので有意義でした。
- ただ講師先生の話聞くだけではなく自らが企画をし、発表までやってしんどかったが、すごくためになった。また、他の人の事例を聞くことが出来、見聞が広がって良かった。
- 段階を踏んで、最後に発表という形が自分たちのやろうとしていることの整理にもなりましてし、発表という場はあまり得意ではなかったのですが、とても勉強になりました。

今後予定している、地域づくり交流会についてのアンケートでも、8割の方が参加したいという声もいただき、充実した連続講座となりました。



今月のキーワード
「ふり返し」

2015年も残り半年。活動をさらに充実させるために、この時期に今までの事業や活動をふり返ってみてもいいかもしれません。今月はNPO虎の巻から、「ふり返し」のヒントをご紹介します。

Q. 事業や活動のふり返しは、事業終了後だけでいいですか？
A. 事業を行う上で、目標達成のために、「Plan 計画⇒Do 実行⇒Check 評価⇒Action 改善」のサイクルにそって進めていくことが望ましいと言われていいます。一般的に年1回程度など、相応の時期に目標に対する現状を振り返る必要がありますが、定期的に進捗状況を確認し軌道修正していくことで、より効果の高い事業を実施することにもつながります。どのメンバーで、どういうタイミングで進捗状況の確認と軌道修正を行うと良いのか、今一度、組織内で話し合ってみてもいいのではないのでしょうか。

NPO 法人の事例〜つねに軌道修正する機会を！
(NPO 法人岡山 NPO センター)

私たちの場合、大きく3チームに分かれて事業を行っていますが、各チームで週に1回は進捗状況を共有し、遅れている事業については分担をし直す会議を開いています。また、個人の日々のタスクは毎日インターネットのツールで共有し、その2つの組み合わせで進捗を管理しています。そして、事業自体の目標に対する見直しを3か月に1度くらい行っています。例えば、大学生の先生が小中学校にボランティアについて出前授業をするプロジェクトでは「年間20校の小中学校へ行く」という具体的な目標を立てていますが、3か月の時点で4分の1が達成できていなかった場合は「なぜいけなかったのか」、「どうすれば達成できるのか」について検証し、広報の仕方や担当者の役割分担、ターゲットとする学校の絞り込みなど計画を立て直して実行することを繰り返しています。また、半年に1回はチームリーダーによる全体の計画見直しや各メンバーの個別面談を行っています。

定住財団では、ふり返りの他にも、業務の効率化を進めるためのセミナーを9月に開催します。詳しくは下記のサイトをご覧ください！

県民活動応援サイト 島根いきいき広場
<http://www.shimane-ikiiki.jp/>
NPO 虎の巻もこちらからダウンロードできます！



島根で 頑張る人



地域を巻き込んだ子育てへの思い

島根県の中部に位置する邑南町。某お見合い番組でも一躍有名になったこのまちは“日本一の子育て村構想”を掲げ、さまざまな施策に取り組んでいる。なかでもシングルマザーの移住支援は大きな反響を呼び、ここ数年で何組ものUターン者が移り住んできたという。そんな邑南町で子どもたちを日々見守り続けているのが、郡山すくすく笑顔の会の代表を務める金山峰子さんだ。

「子どもたちにとって本当に大切なのは、地域みんなで見守り、育てること」。そう話す金山さんには忘れられない出来事がある。保育園の所長として働いていたとき、ある保護者から「小学校に上がる子どもを放課後に預けるところがなく困っている」と相談を受けたのだ。というのも、当時邑南町には放課後児童クラブが一つもなく、学校帰りに子どもたちが安心して過ごせる場所が十分に整っていなかった。そこで立ち上がったのが、地域の人たちだった。金山さんが保育園の空き部屋を提供し、地域の人たちがボランティアで

子どもの面倒を見てくれることになったのだ。こうして始まった児童クラブには、現在60名を超える子どもたちが通っている。金山さんが地域の底力を目の当たりにした瞬間だった。

金山さんが大事にしている活動の一つが、農園での野菜づくりを通した食育だ。娘さんが開いている造形教室の裏で畑を耕し、子どもたちが苗を植える。そして、収穫した野菜は保護者や地域の人と一緒に料理していただく。小さな苗が日に日に成長していく様子が気になって仕方ないのか、放課後には自然と子どもたちが農園にやってくるという。「ピーマン大きくなったね!」、「じゃがいも持って帰る?」。そんな他愛もない日常にこそ、金山さんが望んだ子どもたちの姿があった。

子ども相手の活動は体力との勝負でもある。その上、様々な会の理事も務める金山さんの手帳は、サラリーマンに負けないくらいぎっしりと予定で埋まっている。その原動力となっているのは一体何なのか。「実は私、小さいころから病気がちで、何度か生死をさまよったこともあるんです。だから今こうして生きていることには、きっと何か意味があるんじゃないか、そう思いながらここまで来ました」。今のパワフルな姿からは想像もつかないが、その原点にあるのは金山さん自身の「命」に対する強い思いなのかもしれない。

笑顔の会の活動は今年で4年目を迎え、応援してくれる人も少しずつ増えてきた。「郡山地区だけでなく、この活動がもっともっといろんなまちで広がってほしいなと思っています」。そんな願いを込めながら、金山さんは今日も優しい笑顔で子どもたちを迎える。
(E)



郡山すくすく笑顔の会 代表 金山 峰子さん

島根県出身。県外の養護施設に勤務し、その後邑南町へUターン。38年間保育や福祉施設の現場で子どもたちの成長を見守り続けてきた。退職後は生活相談員として特別養護老人ホームに勤務。人の最期と向き合う中で、命の尊さや未来を担う子どもたちの可能性を再確認し、平成24年に郡山すくすく笑顔の会を立ち上げた。

団体の主な活動

地域で子どもたちを育てようと、夏野菜の苗植えや収穫、四季折々のクッキングなどを開催。活動を通して子どもたちの自主性や郷土愛を育てている。また、イベントには毎回多くの地域住民が参加し、世代を超えた交流の場となっている。子どもたちが育てた野菜は、スーパー「あいタウンアベル」で販売中。ふるさと島根定住財団の「平成24年度社会貢献活動支援事業」助成採択団体。



夏野菜の苗植えの様子

スタッフ後記

専門相談員の行政書士 中野俊雄さんによるトークイベント（自らが撮影された写真の作品展を併設）を定住財団「交流サロン」で開催する予定です。NPO法人の設立をお考えの方に、一般社団法人など、他法人と比較検討される方が多く見受けられますが、法人格の違いについてもお話いただく予定です。詳しくは、開催チラシをご覧ください。松江事務局 地域活動支援課までお問い合わせください。
(T)

ちょっと一息…

人が集まるチラシのコツ

最近読んだ本から、イベント向けのチラシ作りのコツをご紹介します。

・タイトルはチラシの肝！紙面の1/3を使うぐらい大きく

・①何を、②いつ、③どこで、を目立たせる

・集客が落ちてきたら、チラシのデザインを変えるのも手

読みやすく参考になるこの一冊、『人が集まるチラシの作り方』（坂田静香 著）は交流サロンでも貸出ししています。ぜひ一読下さい。

■県内NPO法人数 273

【H27. 6. 31現在】

(内 認定NPO法人数 6、仮認定NPO法人数 0)

■新設NPO法人数 0 ■解散NPO法人数 2 (H27.6月分)

■しまね社会貢献基金登録団体数 50

■だんだん認証レベル取得団体数 43 (内 レベル2 26)

松江
事務局

〒690-0003
松江市朝日町478-18 松江テルサ3階
TEL (0852)28-0690 FAX (0852) 28-0692
E-mail: shimane@teiju.or.jp

〒697-0034

浜田市相生町1391-8 シティパルク浜田2階
石見産業支援センター「いわみぶらっと」内
TEL (0855)25-1600 FAX (0855)25-1630
E-mail: iwami@teiju.or.jp

石見
事務所